

報告者名	井口 隆史
------	-------

報告タイトル	寧夏南部山区の発展方向
--------	-------------

キーワード	寧夏南部山区、内発的発展、生態環境、 循環型農業、退耕還林、
-------	-----------------------------------

【参考文献】

井口 隆史：高度経済成長後の日本農山村（東アジア「条件不利」地域研究会編『東アジアにおける農村の発展と環境』所収），19 - 28，2006
--

【要旨】600字

西川潤氏は、近著の中で、西部地域の経済の実情観察の結果から4つの発展方向が現れていると主張される。それは、市場経済型、外部援助依存型、地元資源利用（NIEO）型、内発型、の4つである。そして、による「内発的発展の事例としては、各所で広がっている『生態環境地域』形成の試みがある。これは、退耕還林を有機複合農業と結び付け、循環型の農業を実現していこうとするものである。」（西川潤・他編著『中国の西部開発と持続可能な発展—開発と環境保全の両立を目指して—』、同友館、2006、12頁）としている。これらに観光業を加える地域もあるようである。 ところで、ここでいう『生態環境地域』とは何か。それは、白石和良氏の著書『農業・農村から見る現代中国事情』（家の光協会、2005）によれば、全国モデルは無く、それぞれの地域の条件や風土を生かした生態農業建設モデルが提示され、そのモデルによる地域づくりを進める地域のことのようなのである。西北乾燥地域のモデルは、たとえば、「農家一戸ごとに、メタンガス発生装置、果樹園、暖房家畜舎、貯水池、監視所の五つを建設する。トイレ、メタンガス、豚舎の三つをリンクさせ、豚舎の下にメタンガス発生装置を建設し、貯水池で養魚を行い、さらに、豚舎の上で養鶏を行い、鶏糞で養豚を行い、豚の糞尿でメタンガスを生産する立体養殖、多角経営システムを形成する」（228～31頁）。まさに、西川氏の挙げられる内発的発展による生態農業そのものであるように思われる。 これらを参考にしつつ、寧夏南部山区の地域条件を前提に、その発展方向を考えたい。
